

< 所感 >			
研究評価システムについて	1		
< 研究成果の紹介 >			
水稲新品種「みえのえみ」の栽培法	2	茶園における土壌窒素無機化量の推定	9
盆前出荷を目指した水稲極早期栽培適地マップを作成	3	機能性成分を賦与・強化する農林水畜産物の栽培・飼育について	10
畦畔被覆シート施工技術の確立	4	収穫後のモロヘイヤの機能性成分を保持する最適温度	11
稲作経営目的と農家による稲作の多面的経済評価の試算	5	肉豚へのアマニ油脂脂肪酸カルシウム添加飼料給与による飼養試験	12
農林水産省果樹試験場で育成されたナシ新系統の特性	6	アマニ油脂脂肪酸カルシウムの飼料添加による鶏卵の ーリノレン酸強化	13
透湿性マルチを利用した極早生ウンシュウの高品質果実生産	7	採胚直後のPG投与による和牛体内胚の効率の生産	14
小型乗用摘採機の作業性および経済的評価	8	コンテナ栽培における樹種別適正な用土	15
< おしらせ >			
グループ制導入について	16		

< 所 感 >

研究評価システムについて

所長 石川 裕一

農業技術センターは、「三重の国づくり宣言」に掲げられています「生活者起点の県政」を農業技術の振興という観点から、また昨年示された「三重県科学技術振興ビジョン」、さらに昨年7月に国で制定された「食糧・農業・農村基本法」に沿った試験研究課題に取り組んでいます。

昨今は、国の試験研究機関および国立大学の独立行政法人化といった大きな時代の変革のなかで、当センターが取り組んでいる研究内容が農業者および一般県民の方のニーズに的確に応えたものなのかどうか問われていますし、研究開発の成果があったのかどうかの説明責任が求められています。

11年度には研究課題の設定から研究成果の公表・伝達の手段までの一連の流れを誰もが納得できるような客観的な視点から「研究評価システム」を作成しました。12年度は本システムを試行し、

細部の問題点を解決し、13年度より本格的な運用を開始する予定です。

本システムの特徴は、第三者による研究評価いわゆる外部評価制度を導入していることで、研究計画の段階から外部（農業者および一般県民）の方の意見が反映され研究開発に参加できる仕組みになっていることです。

このように研究評価を実施することにより、評価の結果が課題の設定・変更、研究予算の配分に反映されることになり、研究開発の効率化・活性化が図れるようになります。

もちろん、評価も人間が行うものですから完全無欠とはいえません。常に評価の改善・充実に努め農業者および一般県民の方に対して開かれた研究活動を効率的に取り組んでまいりたいと思います。本システムについての御質問・御意見をお待ちしています。